

- 1 青岸渡寺 (せいがんどじ)
- 2 紀三井寺 (きみいでら)
- 3 粉河寺 (こなかわでら)
- 4 施福寺 (せふくじ)
- 5 葛井寺 (ふじいでら)
- 6 壺阪寺 (つぼさかでら)
- 7 岡寺 (おかでら)
- 8 長谷寺 (はせでら)
- 9 南円堂 (なんえんどう)
- 10 三室戸寺 (みむろとじ)
- 11 醍醐寺 (だいがじ)
- 12 岩間寺 (いわまでら)
- 13 石山寺 (いしやまでら)
- 14 三井寺 (みいでら)
- 15 今熊野観音寺 (いまくまのかんのんじ)
- 16 清水寺 (しみずでら)
- 17 六波羅蜜寺 (ろくはらみつじ)
- 18 六角堂 (ろっかくどう)
- 19 行願寺 (ぎょうがんじ)
- 20 善峯寺 (ぜんみねでら)
- 21 穴太寺 (あなおうじ)
- 22 総持寺 (そうじ)
- 23 勝尾寺 (かつおうじ)
- 24 中山寺 (なかやまでら)
- 25 播州清水寺 (ばんしゅうしみずでら)
- 26 一乗寺 (いちじょうじ)
- 27 圓教寺 (えんきょうじ)
- 28 成相寺 (なりあいじ)
- 29 松尾寺 (まつのおでら)
- 30 宝厳寺 (ほうこんじ)
- 31 長命寺 (ちやうめいじ)
- 32 観音正寺 (かんのしんじょうじ)
- 33 華厳寺 (けこんじ)



おびき 菅笠...日除け、雨除けになり、お堂の中でも菅笠は着けたままでOK(帽子は外す)

わげさ 輪袈裟...お袈裟の簡易版お参りの正装になるものトイレや食事の際は必ず外す



お経...般若心経や延命十句観音経など

びやくえ 白衣...道中着とも呼ばれる観音霊場用は背中に「南無観世音菩薩」と書かれている

ずだぶろ 頭陀袋...お線香やお経、納札を入れる

服装にこだわることはないで、歩きやすい普段の服装でもOK。袖無しタイプの白衣は夏は涼しく、冬はコート等の上からも着られるので便利

納札...お寺でも販売している

お念珠



御朱印帳...お寺で印をいただく

お線香とライター
1ヶ寺で3本ずつのお線香
簡単に扱えるライターが便利

*お寺にお参りしたときいただきたい
御詠歌護符 散華



～心静かに自然と自分に向き合う旅～

西国巡礼のすすめ

観音さまと巡礼

喜憂哀楽。
1日に私たちは何度も感情に流され、悔しがったり、妬んだり、マイナスの気持ちに苛まれます。しかし、人間の一生は限られたもの。心静かに自分と向き合う時間が、実は自分を癒してくれるのではないのでしょうか。編集室スタッフが、四国お遍路に続き、西国巡礼に旅立ちました。

「巡礼」とは、聖地を巡るという意味があります。日本では、四国お遍路や西国三十三箇所、坂東三十三箇所、秩父三十四箇所などがよく知られています。また、世界に目を向けると、イスラム教のメッカ、キリスト教のサンティアゴ・デ・コンポステーラなどが有名です。

さて、日本で最も歴史が古く参拝者の多い巡礼が、西国三十三箇所といわれます。なぜ三十三なのか？観音さまは、日常生活の中で、仏の姿で導くべき人には仏様の姿で、先生の姿で導くべき人には教師の姿

で、子どもの姿で導くべき人には子どもの姿で現れます。観音さまは、相手にふさわしい姿に身を変えて、私たちの周りにいつもいらつやいます。そして、観音さまは、三十三のお姿に化身されるゆえ、三十三箇所といわれます。しかし、仏教での三十三は「無数の」という意味があるので、あらゆる姿になって、私たちを救ってくださいっているのですね。

ちなみに、西国・坂東・秩父をあわせて百観音と言います。どうして秩父だけ三十四箇所かという、実は最初は三十三箇所だったそうですが、三霊場併せて99よりは100のほうがいいだろう、と1ヶ所増やされたのだそうです。